報　告 1

「市民アンケートの結果について」

市民アンケートの調査概要

調査実施月	令和５年７月
調査対象者	各務原市内に居住の方を対象に住民基本台帳より無作為抽出
調査方法	配布、回収ともに郵送方式
調査内容	ふれあいバスを始めとする公共交通の利用実態及び利用意向等の把握
配布票数	3,000 票
回収票数	1,145 票
回収率	38.2%

市民アンケート調査結果まとめ

日常の交通行動

- 鉄道・バス・タクシーの利用目的は飲食・娯楽、買物、通院・検診といった自由目的が中心
- 鉄道は市外、バス・タクシーは市内を最終目的地とした利用が多い
- 鉄道・バスを利用しない理由で多い項目は、行きたい場所に行けない、駅までの交通手段がない、行きたい時間にバスがない
- この１年間で民間路線バスを利用していない人が７割を占め、最も利用されているイオンモール各務原線でも１割のみ

公共交通の満足度と重要度

- 鉄道、路線バス、ふれあいバスのいずれも総合的な満足度は増加
- 満足度が低く重要度が高い項目には、鉄道３路線のすべてで「自宅から駅までの利便性」が入っており、路線バス・ふれあいバスは「運行本数」が入っている

＜鉄道＞

- JR 高山本線の総合的満足度は 29%から 40%に大きく増加し、名鉄犬山線 55%、名鉄各務原線 53%はそれぞれ微増

＜バス＞

- 路線バスの総合的満足度は 27%から 39%に大きく増加し、満足度が低く重要度が高い項目は、運行本数と始発の時間
- ふれあいバスの総合的満足度は 35%で微増しており、満足度が低く重要度が高い項目は、運行本数と行きたい方向とバスルートの整合性

ふれあいバスとチョイソコのあり方

- 果たすべき役割の重要度が高い項目は、交通不便者の移動手段、路線バスのない地域の移動手段、通院や買物などの日常の移動手段
- 果たしていない役割は、通勤・通学対応、いつでもバスを利用できる安心感
- 達成度が低く、重要度が高い項目はいつでもバスを利用できる安心感

自由意見

- 今は利用していないが、高齢になったら利用することになるので充実してほしい、といった将来の利用に関する意見が多い

各務原市地域公共交通網形成計画後期計画の評価

後期計画の成果指標として挙げられた４項目のうち、市民アンケートから算出する２項目について数値を確認する。

成果指標	目標値	R5 実績	評価
１ヶ月に１回以上公共交通を利用する人の割合	40%	**34.1%**	未達成
公共交通に対する不満割合	20%未満	**21.6%**	未達成

■１ヶ月に１回以上公共交通を利用する人の割合

公共交通モード別に見てみると、鉄道を１ヶ月に１回以上利用する人の割合が最も多く、バス、タクシーの３倍程度となっている。

鉄道	バス	タクシー
27.1%	10.0%	8.9%

地区別に見てみると、概ね３～４割程度の割合で１ヶ月に１回以上公共交通を利用する人が存在しているが、緑苑小学校区は５割以上、尾崎・川島小学校区は２割となっており、他の校区とは異なる傾向がある。（※緑苑、尾崎小学校区はｎが少ないため参考）

那加 1、那加 2、那加 3 小学校区(n=232)	36.2%
稲羽西、稲羽東小学校区(n=104)	32.7%
鵜沼 1、鵜沼 2、鵜沼 3、陵南小学校区(n=325)	39.4%
緑苑小学校区(n=30)	53.3%
蘇原 1、蘇原 2、中央小学校区(n=240)	29.2%
尾崎小学校区(n=30)	20.0%
各務、八木山小学校区(n=109)	33.0%
川島小学校区(n=63)	19.0%

年齢別に見てみると、20 歳未満、20 歳代の割合が高くなっており、最も低いのは 65～69 歳の 21.9%となっている。

20 歳未満 (n=49)	20 歳代 (n=79)	30 歳代 (n=111)	40 歳代 (n=147)	50 歳代 (n=193)	60～64 歳 (n=77)	65～69 歳 (n=97)	70～74 歳 (n=118)	75 歳以上 (n=266)
71.4%	51.9%	27.9%	29.9%	30.6%	29.9%	21.6%	24.6%	39.1%

■公共交通に対する不満割合

不満割合を路線別に見てみると、ふれあいバスと JR 高山本線が高く３割程度となっており、次いで路線バス、名鉄犬山線となっている。

JR 高山本線(n=161)	29.8%
名鉄犬山線(n=235)	16.2%
名鉄各務原線(n=278)	14.7%
路線バス(n=185)	23.8%
ふれあいバス(n=179)	30.7%
チョイソコかかみがはら(n=15)	6.7%

市民アンケート調査結果概要

項目			今回調査結果の概要	前回調査（H30）からの変化
1．回答者属性	①属性		・65 歳以上が約 42%、勤め人が約 33%、無職が約 23% ・免許保有率約 82%、免許保有者のうち自動車保有者は約 92%	・前回調査と同様の傾向
	②最寄り公共交通		・最寄りの公共交通は、名鉄バス、JR 高山線が多い ・鉄道駅・バス停までの距離は 500m以内が約 47%、1km までで約 85%	・前回調査と同様の傾向
2．日常の交通行動	①鉄道の利用状況	利用頻度	・週に３～４回以上利用する人が約 10%	・月に１～３回の低頻度の割合が減少し、「利用しない」が増加
		非利用理由	・行きたい場所に行けない、駅までの交通手段がないため、鉄道を利用していない	・上位２位は前回調査と順位が入れ替わっている
		利用目的	・飲食・娯楽、買物目的の鉄道利用が多い	・前回調査と同様の傾向
		目的地	・名古屋市、岐阜市への移動で鉄道を利用する人が多い	・前回調査と同様の傾向
		利用駅	・名鉄各務原線、JR 高山線の利用が多い	－
		駅までの交通手段	・駅までの交通手段は、徒歩、自動車が多い	・前回調査と同様の傾向であるが、「自動車（自身で運転）」が前回から増加
		利用時間帯	・鉄道利用のピークは、行きは 9,10 時台、帰りは 16,17 時台	・行きは前回調査よりも遅い時間帯にピークがシフト
	②バスの利用状況	利用頻度	・利用していない人が約 75%	・前回調査と同様の傾向
		非利用理由	・行きたい場所に行けない、行きたい時間にバスがないため、バスを利用していない	・上位２位は前回調査と順位が入れ替わっている
		利用目的	・買物、飲食・娯楽、通院・検診目的のバス利用が多い	・前回調査と同様の傾向
		目的地	・市内の移動を中心に、市外は岐阜市、名古屋市への移動でバスを利用する人が多い	・前回調査と同様の傾向
		利用バス	・日頃利用するバスは、ふれあいバス約 53%、路線バス約 48%	・前回調査と同様の傾向
		バス停までの交通手段	・バス停までの交通手段は、徒歩が約 80%	・前回調査と同様の傾向であるが、車（自分で運転＋送迎）の割合が減少
		乗り継ぎ先	・バスの乗り継ぎ先は、名鉄各務原線が約 41%、JR 高山本線が約 25%	－
		利用時間帯	・バス利用のピークは、行きは 10 時台、帰りは 16 時台	・行きは前回調査よりも遅い時間帯の割合が増加
	③この１年間に利用した民間路線バス		・民間路線バスを利用していない人が約 71% ・イオンモール各務原線の利用が最も多く約９%	・前回調査と同様の傾向
	④今後利用する見込みがある民間路線バス		・今後も民間路線バスを利用しない人が約 52% ・利用見込みがある路線は現況と同じ路線	・前回調査と同様の傾向
	⑤タクシーの利用状況	利用頻度	・利用しないが約 72%、年に数回が約 19%	－
		利用目的	・飲食・娯楽が約 41%、通院・検診が約 29%	－
		目的地	・市内が約 70%、岐阜市が約 31%、名古屋市が約 15%	－
3．公共交通の満足度と重要度	①鉄道の満足度と重要度	JR 高山本線	・総合的満足度率は約 40% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、運行本数、自宅から駅までの利便性、駅の自動車駐車場	・総合的満足率は前回調査から増加（+11 ポイント） ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査から減少
		名鉄犬山線	・総合的満足度率は約 55% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、自宅から駅までの利便性	・総合的満足率は前回調査からわずかに増加（+３ポイント） ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査から減少
		名鉄各務原線	・総合的満足度率は約 53% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、自宅から駅までの利便性	・総合的満足率は前回調査からわずかに増加（+１ポイント） ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査から減少
	②路線バスの満足度と重要度		・総合的満足率は約 39% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、運行本数、始発の時間 ・運行本数に関する要望が多い	・総合的満足率は前回調査から増加（+12 ポイント） ・満足度が低く、重要度が高い項目は、運賃が始発の時間と入れ替わっている
	③ふれあいバスの満足度と重要度		・総合的満足率は約 35% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、運行本数、行きたい方向とバスルートの整合性 ・運行本数、最終の時間に関する要望が多い	・総合的満足率は前回調査からわずかに増加（+２ポイント） ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査から減少
	④チョイソコの満足度と重要度		・総合的満足率は約 40% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、運行日、運行エリア、予約方法	－
4．ふれあいバスとチョイソコのあり方			・果たすべき役割の重要度は、交通不便者の移動手段が約 95%、路線バスのない地域の移動手段が約 90%、通院や買物などの日常の移動手段が約 85% ・果たしていない役割は、通勤・通学対応が約 35%、いつでもバスを利用できる安心感が約 34% ・達成度が低く、重要度が高い項目はいつでもバスを利用できる安心感	・果たすべき役割の重要度は、前回調査と同様の傾向 ・果たしていない役割は、市外施設へ行くための移動手段が、いつでも利用できるという安心感に入れ替わっている
5．自由意見			・今は利用していないが、高齢になったら利用することになるので充実してほしいという意見が多い	・前回調査では、運行本数の増便要望が最も多かった